

# 大学院特別講義

(医歯学先端研究特論) (生命理工学先端研究特論)  
(医歯理工学先端研究特論)

下記により大学院特別講義を行いますので、多数ご来聴下さい。

## 記

1. 講 師 佐々木 勝忠 先生  
奥州市国保衣川歯科診療所 所長
2. 演 題 歯科・口腔の重要性を再認識する
3. 日 時 平成25年6月18日(火)  
16時30分 ~ 18時30分
4. 場 所 第2講義室 (歯学部 7号館)
5. 内 容

動物の歯がなくなることは、栄養確保が困難になり「死」を意味します。人間は、歯がなくなったとしても咀嚼しなくてもいいように食べ物を軟らかく加工することによって、あるいは歯科治療によって食形態を落とすことなく栄養を確保します。

食形態の低下によって低栄養に陥りやすくなり、特に障害高齢者においては嚥下障害も加わり高度な低栄養になり、肺炎や褥瘡などの症状を引き起こします。歯科治療で食形態を向上させることによって栄養改善がなされ、ADLの向上につながります。

歯科治療後の経過観察として栄養評価をすることは重要であります。しかしながら、栄養評価では血清アルブミン値などの血液検査が客観的データ評価の主流になっています。口腔外科以外の多くの歯科医師は、血液検査をすることがほとんどありません。そこで、血液検査以外の栄養評価として体重減少率に着目し、特養ホームで亡くなった方々の死亡前の体重減少率を調査しました。嚥下障害をきたした特養ホーム入所者への歯科介入の症例を紹介しながら、栄養評価としての体重減少率の有用性を検討したいと考えています。

【連絡先】 健康推進歯学分野 川口 陽子 (内線 5475)